

戦後社会保障の成果と 少子高齢社会の課題

神奈川県立保健福祉大学名誉教授

山崎 泰彦

1 家族史の中の社会保障

- 様変わりした老後：明治世代～戦後世代
- 家族扶養から社会的扶養（国民連帯）へ
- 国民皆保険・皆年金、そして介護保険

2 女性の人生を変えた 雇用と社会保障

- 家に嫁ぐ結婚からパートナーへ
- 社会見学的、家計補助的労働から・・・
- 男女雇用機会均等法と基礎年金の成果

3 社会保障がなければ 国民生活の安定はない

- 家族扶養に回帰できるか
- 自助のみで将来不安に備えられるか
- リスク分散のシステムとしての社会保障

[4 日本の社会保障制度の特徴]

- 中規模の給付費、小規模の国民負担
- 年金・医療に8割、福祉に2割
- 高齢者に7割、児童・家族関係に4%
- 社会保険で9割の支払い
- 少くない公費（財源の3分の1）

[5 持続可能な社会保障制度へ]

- 最重点課題は次世代育成支援
- 年金・医療制度改革と制度間調整
- 国・地方の役割分担
- 参加型社会保障の構築へ

6 社会保障の費用を どのように負担するか

- 社会保険の意義の再確認
- 社会保障に対する税負担のあり方
- 高齢世代にも適正な負担を
- 消費税と社会保障

[7 一体改革案の意義と課題]

- 与野党の政策の接近（対立から協調へ）
- 重点化と効率化を受け入れられるか
- 政治の安定と社会保障教育の充実